

# 総 合 評 価 基 準

「郵政総合情報通信ネットワークの設計及び構築に係る工程管理支援作業等の委託」

日本郵政インフォメーションテクノロジー株式会社  
ネットワークシステム部

本評価基準については、「郵政総合情報通信ネットワークの設計及び構築に係る工程管理支援作業等の委託」の仕様書に基づいて定めたものであり、評価に当たっては次により行う。

なお、落札者が入札書とともに提出した提案書の内容は、仕様書等と同様にすべて納入検査等の対象とする。

## 1 必須要件

提案書は、仕様書に定める要求要件をすべて満たしていなければならない。

ただし、一つでも仕様書に定める要求要件を満たしていない場合は、その後の評価は行わず、当該提案書を不合格とする。

## 2 必須以外の要件

仕様書に定める要求要件を超える部分について、更に有効な提案が行われた場合は、その内容に応じて最高100点の点数を与える。

なお、評価する提案内容及び配点については、「総合評価基準表」（別紙）のとおりとする。  
ただし、実現性が低い等提案内容が有益でない場合は加点対象とはせず「0点」とする。

相対的評価結果	評価観点重要度	
	重要項目	一般項目
	A	B
相対的に優れている	10点	5点
相対的にやや優れている	8点	4点
標準である	6点	3点
相対的にやや劣っている	4点	2点
相対的に劣っている	2点	1点
実現性が低い等有益でない	0点	0点

## 3 総合評価得点

(1) 総合評価の得点は、入札金額の得点（価格点）と、提案書の評価得点（技術点）で構成する。

(2) 価格点は、入札金額を予定価格で除して得た値を1から減じて得た値に、提案書の評価得点の合計を乗じて得た値とする。ただし、入札金額が予定価格の6割を下回っている場合は、予定価格の6割を「入札金額」に置き換えて価格点を算出するものとする。

(3) 価格点と技術点の配分は1：3とする。

## 総合評価基準表

## 1 必須要件

評価項目	評価観点	重要度	評価	評価時の確認場所
・ 提案書形式	・ 評価基準の各評価項目について、提案書のどの箇所に当該評価項目の内容が記載されているか、「評価時の確認箇所」に記載されていること。	—	—	—
・ 仕様書に定める項目	・ 調達仕様書の全ての要件を理解し、漏れなく準拠するよう対応すること。また、それが確認できる資料の提示があること。	—	合格 又は 不合格	

## 2 必須以外の要件

評価項目	評価観点 []内は提案の他に最低限必要な資料を示す	重要度	配点	評価時の確認場所
相 対 評 価 項 目				
・ 受託者の実績	[契約書写（仕様書含）、受注証明書等] ・ 全国規模（端末 8,000 台以上）であり、かつ本件と類似する高度なネットワークシステムの「設計及び構築管理」又は「設計及び構築」の実績が過去 10 年間にある。 ※実績期間は契約締結日で判断 ※プライムとしての実績に限る ※複数ある場合は複数提示すること	A	10	
	[契約書写（仕様書含）、受注証明書等] ・ 24 時間 365 日の高可用性を要する金融機関における勘定系システムの「設計及び構築管理」又は「設計及び構築」の実績が過去 10 年間にある。 ※実績期間は契約締結日で判断 ※プライムとしての実績に限る ※複数ある場合は複数提示すること	A	10	
	[契約書写（仕様書含）、受注証明書等] ・ 直接契約を有さない複数構築事業者との協業体制下での大規模なシステム開発において、ステークホルダーとの調整を含む PMO 業務の実績が過去 10 年間にある。 ※実績期間は契約締結日で判断 ※プライムとしての実績に限る ※複数ある場合は複数提示すること	A	10	
・ 作業体制	[要員一覧（実績、公的資格）、体制図等] ・ 本調達仕様書に基づく作業の主要メンバ（プロジェクトマネージャ、アーキテクトなど）の業務実績、保有資格が明記されているか。また、スケジュールに応じた要員計画が示されているか。 評価観点となる構成要素は下記のとおり。 業務年数、類似案件実績、体制図（月別・工程別要員数、要員配置（役割）、及びこれらのフィージビリティを確認できる算出根拠）、保有資格、資格保有者人数など	A	10	
・ 最新技術及び標準化	[最新技術動向等の比較表等] ・ ネットワークに関する最新技術（セキュリティ含む）動向及び標準化の検討が行われており、日本郵政グループに適用する場合を考慮したメリット、デメリットが評価されている。	A	10	
・ ライフサイクルの長期化	[機器、機能別のライフサイクル、更改方式の比較表等] ・ 次期 PNET 機器を長期間大規模な改修を伴わずに使用し続ける（ライフサイクル長期化）ために考慮すべき観点が洗い出されており、各項目に対して有効な提案（具体性、詳細性、実現可能性）がなされているか。 評価観点となる要素は下記のとおり。 前提事項、コストの観点、実現方式、スケジュール、及びこれらのフィージビリティを確認できる算出根拠など	A	10	

評価項目	評価観点 []内は提案の他に最低限必要な資料を示す	重要度	配点	評価時の確認場所
・プロジェクト計画	<p>[プロジェクト計画書(案)等]</p> <p>・プロジェクト計画は、設計工程における受託者の作業品質を担保する上で十分な内容(具体性、詳細性、有効性)となっているか。</p> <p>評価観点となる資料は下記のとおり。</p> <p>マスタスケジュール、WBS(各タスクの担当者名、期間、工数、KPIの記載、及びこれらのフェージビリティを確認できる算出根拠)、進捗管理報告書、品質管理報告書、リスク管理表、課題管理表 など</p>	B	5	
・工程管理支援作業	<p>[想定する作業一覧]</p> <p>・構築管理業務に際し、必要作業が洗い出されており、各作業の配慮すべき事項について、本件委託業務に適切、有効な内容(具体性、詳細性、有効性)となっているか。</p> <p>評価観点となる要素は下記のとおり。</p> <p>品質管理、リスク管理、課題管理、進捗管理、変更管理、文書管理、その他調整支援 など</p>	B	5	
・リスク対応力	<p>[想定するリスク一覧]</p> <p>・本件調達目的及び日本郵政グループの特性を踏まえ、次期 PNET 構築において想定されるリスク及びその対策案(リスク検知の仕組みを含む)が具体的に明記されているか。</p> <p>評価観点となるリスクは下記のとおり。</p> <p>移行に関するリスク、運用に関するリスク、機器選定に関するリスク、認証に関するリスク、各社調整に関するリスク など</p>	A	10	
・構築に係る透明性、公平性の確保	<p>[イメージ図、比較表、カタログ等]</p> <p>・設計事業者にて作成する構築条件書を基に、設計事業者が後続の構築に参加できることを踏まえ、構築に係る調達の透明性・公平性・コストの適正化に際して、具体的な方法を提案すること。</p> <p>評価観点となる要素は下記のとおり。</p> <p>公平性を担保する仕組み、機器選定の基準の明記、比較基準と結果の定量的記載、競争を促すための仕組み など</p>	B	5	
・運用業務設計	<p>[イメージ図、比較表、カタログ等]</p> <p>・次期 PNET の運用業務効率化に際し、日本郵政グループの現状を理解の上、現実的な運用業務設計を提案すること。</p> <p>評価観点となる検討施策は下記のとおり。</p> <p>利用申請の一本化、問合せ窓口の一本化、人事異動時のリードタイム短縮、NMSの操作性向上 など</p>	B	5	
	<p>[イメージ図、比較表、カタログ等]</p> <p>・ネットワークシステムの稼働状況、リソース、ユーザサービスレベルや業務量を容易に可視化・把握・管理ができ、効率化や品質改善のための PDCA サイクルを運用者自身が円滑に回すことが可能な運用業務設計を提案すること。</p> <p>評価観点となる要素は下記のとおり。</p> <p>サービス品質の見える化、評価・分析手順、改善活動 など</p>	B	5	
・運用効率化への寄与	<p>[イメージ図、比較表、カタログ等]</p> <p>・大規模ネットワークシステムを効率的に運用し、かつユーザに対して高品質の運用サービスの提供、主管の負担を軽減できるようなネットワーク管理システムと運用者が連動した運用業務設計を提案すること。</p> <p>評価観点となる要素は下記のとおり。</p> <p>要員配置、要員を適正に稼働できる組織体制、ネットワーク管理システムに具備すべき要件、ネットワーク管理システムと運用者の役割の明確化 など</p>	B	5	
評価得点合計			100	